

授業科目 聴覚障害Ⅰ（小児）

【担当教員名】 山口富一	対象学年	2	対象学科	言語
	開講時期	前期	必修・選択	必修
	単位数	2	時間数	30

<概要>

聴覚障害児に対する正しい理解と適切な指導のための基本理念を理解する。
小児聴覚障害の種類と、その特性・評価・訓練・指導・助言について理解する。

<学習目標>

1. 聞こえとその障害についての基本的な知識を持つ。
2. 小児聴覚障害の種類と特性を理解する。
3. 聴覚障害児の発達（心理・行動特徴、言語・コミュニケーション特徴）を理解する。
4. 聴覚障害児の検査と評価を理解する。
5. 聴覚障害児の言語発達に必要な環境調整を理解する。
6. 聴覚障害児の言語指導・訓練プログラムが立案の要点を理解する。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1 2	聞こえの仕組みとその障害について理解する。		講義
3	聴覚障害児の聴覚と言語発達について理解する。		講義
4 5	聴覚障害乳幼児の聴力検査方の種類と適用について理解する。		講義
6	聴覚障害児の聴取能力の検査と評価方法を理解する。		講義
7	聴覚障害児の言語力とコミュニケーション能力の検査と評価法について理解する。		講義
8	聴覚障害児の発声発語検査の方法と評価を理解する。		講義
9 10	聴能訓練と聴覚学習についての基本を理解する。		講義
11	聴覚障害児の指導訓練プログラムの立案に必要な要素を理解する。		講義
12	コミュニケーションモードの選択とコミュニケーション指導について理解する。		講義
13	発声・発語指導の方法について理解する。		講義
14	重複障害・環境調整・関係機関との連携について理解する。		講義

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書	言語聴覚療法シリーズ6聴覚障害Ⅱ-臨床編	佐場野優一他	建帛社	平成12年10月15日 ¥2400E ISBN4-7679-4506-2
参考書	聴覚障害教育の手引き：多様なコミュニケーション手段とそれを活用した指導	文部省編	海文堂出版	1995 ¥ ISBN-4-303-12650-0
その他の資料	必要に応じてプリント配布			

【評価方法】

講義の区切りにミニテストを行う。
定期試験とミニテスト・普段の授業態度によって評価を行う。

【履修上の留意点】

出席を重視する。
主体的な学習とノートのまとめ・ミニテストを重視する。